



世界で活躍している日本人研究者の経験に基づく 世界で活躍するためのコンピテンシー に関するインタビュー調査

JST「世界で活躍できる研究者育成プログラム総合支援事業」

本調査は、
JST「世界で活躍できる研究者育成プログラム総合支援事業」が、
有限責任監査法人デロイトトーマツに業務委託し、
2021年度に実施されました。



科学技術振興機構

目次

本調査の目的・概要	3
調査項目（インタビュー項目）	5
インタビューの選定	7
考察・分析	9

appendix	18
----------	----

本調査の目的・概要

本調査では、国際的に著名な日本人研究者を対象として、その研究者が有しているコンピテンシーの実態や、国際的な活躍に至るまでのエピソードなどインタビューを行い、世界で活躍できる研究者に求められるコンピテンシーの分析を行なった。

本調査の目的・概要

本調査の目的	<ul style="list-style-type: none">■ 国際的に著名な日本人研究者を対象として、その研究者が有しているコンピテンシー（能力、知識、特性など）の実態や、各コンピテンシーの重要度、国際的な活躍に至るまでのエピソードなどについてインタビュー調査を行い、世界で活躍するために必要な素養、重要な能力を明らかにする。■ インタビューをふまえた分析結果は、本事業プログラム・フレームワークや、本事業が開発する研究者育成プログラムの構築に利用する。
概要	<p>【調査対象】 JST「世界で活躍できる研究者育成プログラム総合支援事業」開発普及委員会委員等により、国際的に活躍し高い業績を有するものとして選定された日本人研究者30名</p> <p>【インタビュー方法】 日本語によるインタビュー（1名当たり90分程度）、オンライン会議形式での実施</p> <p>【調査時期】 2021年1月～3月</p>

調査項目（インタビュー項目）

「世界で活躍するために、どのようなコンピテンシーが必要か」「各キャリアステージにおいて、どのような困難があったか」などをエピソードを踏まえてお話いただいた。

ヒアリング項目

#	##	備考
01	日本の研究者が世界で活躍するために、どのようなコンピテンシー（能力や知識、素養等）が必要か。	<ul style="list-style-type: none"> • 下記A~Eについて、ご自身の経験を踏まえて思い浮かぶもの、裏付けとなるエピソードもあれば。またご経験上、各ステージ※で必要とされたスキル。 • 基本的な能力・スキルは有している前提で、特に重要なもの・強化した方が良くご経験上感じたもの。
	A 研究の専門性	専門的知識・技術 その分野の知識的なもの など
	B 個人に有効な能力	マネジメントスキル プロマネなど組織で必要な能力 など
	C 他者との関わり	人間関係スキル コミュニケーション など
	D キャリアアップ	ビジネス上のスキルなど など
	E その他	上記にはまらないもので必要となるスキル
02	成功のきっかけは何か。	<ul style="list-style-type: none"> • どのような場面で一人前の研究者になれたと感じたか、研究者として一皮むけたと感ずることができたか、など。
03	これまでにどんな困難があったか。	
	031 各ステージ※における困難について	<ul style="list-style-type: none"> • 01のA~Eでどの部分がネックと感じたか（エピソードなども含めて）
	032 困難を克服するための工夫について	<ul style="list-style-type: none"> • 031の各困難についてA~Eのどの能力でどのように突破・工夫したのか
04	自分の強みは何か。またどのように自身のプレゼンスを世界にアピールしたか。	<ul style="list-style-type: none"> • 01のA~Eのどの能力が自分の強みと感ずるか • 自覚している強みが客観的に強みだと分かるエピソード（実績・経験等）があれば。 • 世界への自身の売り込み方や、アピール方法はどのようなものであったか

インタビューの選定

本調査では、JST「世界で活躍できる研究者育成プログラム総合支援事業」開発普及委員会委員等が国際的に活躍し高い業績を有するものとして、年代や分野を問わず30名の研究者を選定し、インタビューの対象（インタビューー）とした。

インタビューリスト（分野別×氏名順）

人文学

- 研究者①
- 国立民族学博物館 准教授

人文学

- 研究者②
- 京都大学 教授

社会科学

- 研究者③
- GRIPS 教授

社会科学

- 研究者④
- JETRO Bangkok 副主任研究員

社会科学

- 研究者⑤
- 九州大学 副学長

社会科学

- 研究者⑥
- テュービンゲン大学 上級研究員

社会科学

- 研究者⑦
- 星槎大学 副学長

総合理工

- 研究者⑧
- 九州大学 教授

総合理工

- 研究者⑨
- 千葉大学 教授

総合理工

- 研究者⑩
- クイーンズランド大学 教授

数物系科学

- 研究者⑪
- 理化学研究所 主任研究員

数物系科学

- 研究者⑫
- 東京理科大学 副学長

化学

- 研究者⑬
- 名古屋大学 教授

化学

- 研究者⑭
- ミュンヘン工科大学 教授

化学

- 研究者⑮
- デルフト工科大学 教授

工学

- 研究者⑯
- 南洋理工大学 准教授

総合生物

- 研究者⑰
- 東京医科歯科大学 教授

総合生物

- 研究者⑱
- 東京工業大学 准教授

総合生物

- 研究者⑲
- コーネル大学 教授

生物学

- 研究者⑳
- 同志社大学 教授

医歯薬学

- 研究者㉑
- 岡山大学 副理事

医歯薬学

- 研究者㉒
- ロンドン大学 教授

医歯薬学

- 研究者㉓
- 東北大学 教授

情報学

- 研究者㉔
- NASA JPL 研究員

情報学

- 研究者㉕
- 理化学研究所 センター長

情報学

- 研究者㉖
- 富士通研究所 フェロー

環境学

- 研究者㉗
- 北海道大学 教授

環境学

- 研究者㉘
- 東京大学 教授

複合領域

- 研究者㉙
- ナノ医療イノベーションセンター センター長

複合領域

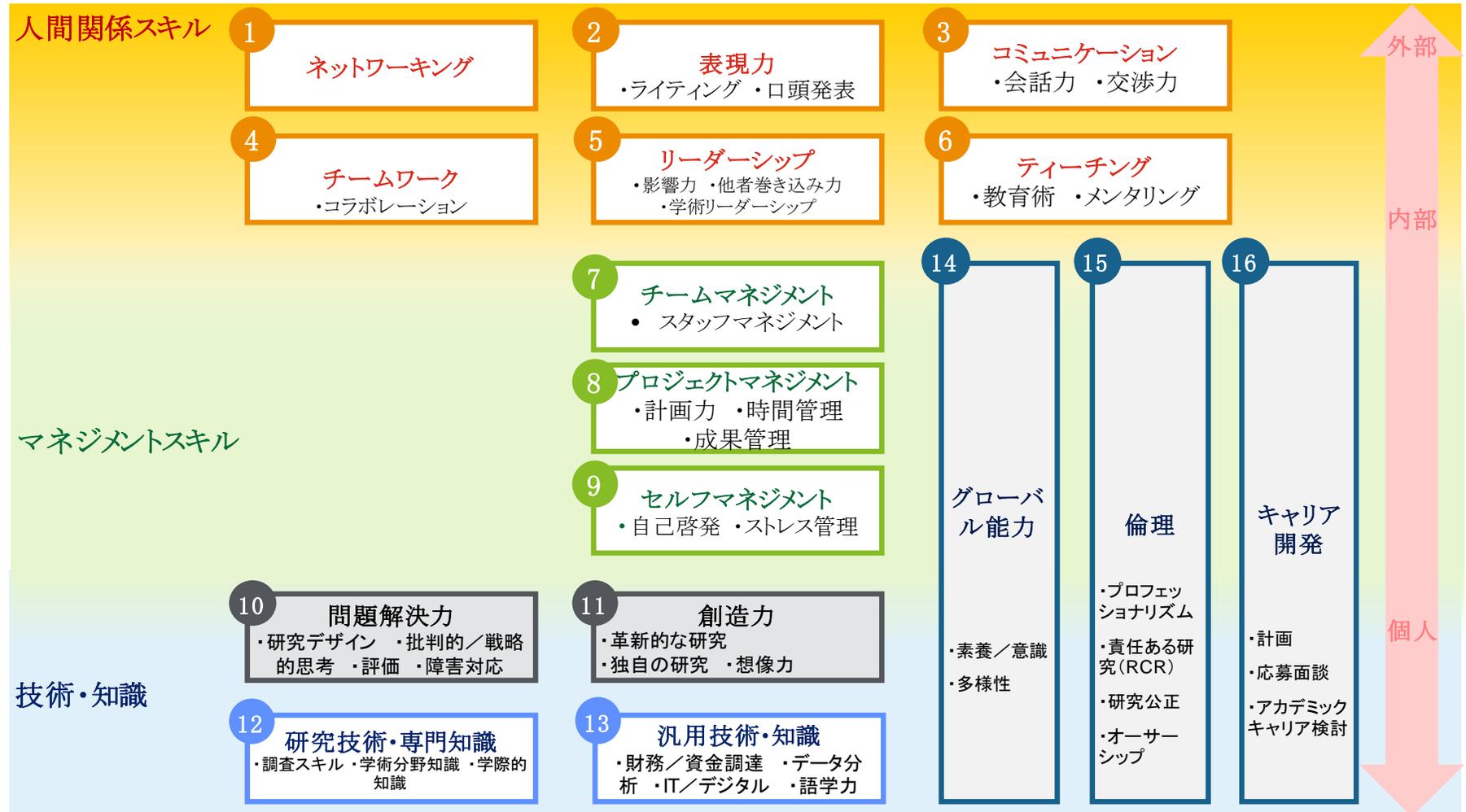
- 研究者㉚
- KIST 主任研究員

【凡例】上段：主所属、下段：氏名及び役職
 分野はJREC-IN Portal記載の大分類を使用
<https://jrecin.jst.go.jp/seek/SeekDescription?id=005>

考察・分析

研究者に必要な資質能力・技能等の標準的な要素とされるコンピテンシーを以下のように整理している。

【参考】研究者に必要な資質能力・技能等の標準的な要素



【参考】『平成31年度文部科学省委託「海外の研究者育成における研究者としての職能開発に関する研究」報告書』（文部科学省、有限責任監査法人トーマツ）

人間関係スキル、マネジメントスキル、技術・知識のいずれも必要であるとされたうえで、特にネットワーキング、コミュニケーション、セルフマネジメントが重要視されていた。

各インタビューの重要視しているコンピテンシー（一覧）

		人間関係スキル						マネジメントスキル			技術・知識						
		1 ネットワーキング	2 表現力	3 コミュニケーション	4 チームワーク	5 リーダーシップ	6 ティーチング	7 チームマネジメント	8 プロジェクトマネジメント	9 セルフマネジメント	10 問題解決力	11 創造力	12 研究技術・専門知識	13 汎用技術・知識	14 グローバル能力	15 倫理	16 キャリア開発
文系	人文学	研究者①	●	●					●						●		
		研究者②					●		●						●		
	社会科学	研究者③	●						●				●				
		研究者④	●									●			●		
		研究者⑤			●							●	●				
		研究者⑥	●								●			●			
		研究者⑦	●		●					●							
理系	総合理工	研究者⑧						●				●					
		研究者⑨			●				●						●		
	数物系科学	研究者⑩						●	●					●			
		研究者⑪	●	●					●								
	化学	研究者⑫		●								●					
		研究者⑬			●								●				
	工学	研究者⑭		●	●								●				
		研究者⑮		●								●					
	総合生物	研究者⑯		●					●						●		
		研究者⑰		●								●					
	生物学	研究者⑱	●		●	●							●		●		
		研究者⑲	●		●							●					
	医歯薬学	研究者⑳	●	●	●		●						●		●		
		研究者㉑		●	●				●					●			
	情報学	研究者㉒			●	●						●					
		研究者㉓	●		●		●							●			
環境学	研究者㉔	●		●													
	研究者㉕		●					●									
複合	複合領域	研究者㉖													●		
		研究者㉗				●											
		研究者㉘													●		

1 ネットワーキング

3 コミュニケーション

9 セルフマネジメント

人間関係スキルにおいては、ネットワーキング・コミュニケーション、マネジメントスキルにおいてはセルフマネジメントが重要視されている

【詳細】各インタビューの重要視しているコンピテンシー（人間関係スキル・マネジメントスキル）

			人間関係スキル						マネジメントスキル		
			1	2	3	4	5	6	7	8	9
			ネットワーキング	表現力	コミュニケーション	チームワーク	リーダーシップ	ティーチング	チームマネジメント	プロジェクトマネジメント	セルフマネジメント
文系	人文学	研究者①	●	●							
		研究者②						●			●
	社会科学	研究者③	●							●	
		研究者④	●								
		研究者⑤			●						
		研究者⑥	●								
		研究者⑦	●		●						●
理系	総合理工	研究者⑧			●				●		
		研究者⑨			●						●
		研究者⑩							●		●
	数物系科学	研究者⑪	●	●							●
		研究者⑫			●		●				
	化学	研究者⑬		●							●
		研究者⑭							●		●
		研究者⑮		●	●						●
	工学	研究者⑯				●					●
	総合生物	研究者⑰		●							●
		研究者⑱	●	●					●		
	生物学	研究者⑲	●								
		研究者⑳	●		●	●					●
		研究者㉑		●	●		●				
	医歯薬学	研究者㉒		●	●		●				●
		研究者㉓		●			●		●		
		研究者㉔			●	●					●
	情報学	研究者㉕	●		●	●	●				●
		研究者㉖			●						●
		研究者㉗	●		●				●		
環境学	研究者㉘		●						●	●	
	研究者㉙									●	
複合	複合領域	研究者㉚				●				●	
		研究者㉛								●	

凡例 ●：インタビュー内でインタビューが有する、または重要視していることが認識されたコンピテンシー

知識・技術においては、創造力やグローバル能力が重要視されている。

【詳細】各インタビューの重要視しているコンピテンシー（知識・技能）

			技術・知識						
			10	11	12	13	14	15	16
			問題解決力	創造力	研究技術・専門知識	汎用技術・知識	グローバル能力	倫理	キャリア開発
文系	人文学	研究者①					●		
		研究者②					●		
	社会科学	研究者③			●				
		研究者④		●			●		
		研究者⑤		●	●				
		研究者⑥	●			●			
		研究者⑦							
理系	総合理工	研究者⑧		●					
		研究者⑨					●		
	数物系科学	研究者⑩				●			
		研究者⑪							
	化学	研究者⑫			●				
		研究者⑬		●					
		研究者⑭			●				
	工学	研究者⑮				●			
		研究者⑯		●					
	総合生物	研究者⑰				●			
		研究者⑱		●				●	
	生物学	研究者⑲		●					
		研究者⑳							
	医歯薬学	研究者㉑				●			
		研究者㉒			●			●	
		研究者㉓				●			
	情報学	研究者㉔		●					
		研究者㉕							
		研究者㉖			●				
	環境学	研究者㉗							
研究者㉘									
複合	複合領域	研究者㉙		●			●		
		研究者㉚				●			

凡例 ●：インタビュー内でインタビューが有する、または重要視していることが認識されたコンピテンシー

研究者として世界で活躍するためには、ネットワークの構築やモチベーションの維持・ストレス管理が必要である。

インタビュー結果Summary

インタビュー結果概要

- 1 日本人が世界で活躍するためには、特にネットワーキングやコミュニケーションといった人間関係スキルとセルフマネジメントスキルが重要であることが明らかになった。
- 2 ただし、研究者に求められる標準的な要素はいずれも必要であり、全てのスキルを最低限は有していることが求められている。

各素養のポイント

人間関係 スキル

多くのインタビューが「ネットワーキング」及び「コミュニケーション」の能力を重要視
コミュニケーションを大切にし、ネットワークを意識的に構築、それを維持していくことが世界的な活躍には不可欠

マネジメント スキル

研究を続けるにあたり、「セルフマネジメント」は、自己啓発とストレス管理の2点が必要
つらい時もあきらめずに進んだ結果として現在があり、今もなお満足することなく向上心を持って研究に取り組む

技術・知識

日本人研究者は研究の専門性を十分に有していると考えられる
ただし、世界では英語が共通言語として使われているため、英語力（語学力）はより一層の向上が求められる

やり方は人それぞれだが、「ネットワーキング」及び「コミュニケーション」の能力が重要視されている。

研究者に求められる人間関係スキルの分析結果

1 「ネットワーキング」及び「コミュニケーション」の能力は、3つのスタイルに大分される

- ✓ 多くのインタビューが「ネットワーキング」及び「コミュニケーション」の能力を重要視している
- ✓ 特定の手法が唯一解ではなく、個人の性格・環境にあったスタイルでよい

スタイルの種類	行動・手法
欧米人に負けない積極性	✓ 学会などでは1回以上は質問したり、知らない人に話しかけたりなど、周りに負けないように力を入れて克服する
無理のない範囲で努力	✓ 留学先で知り合った人と仲良くなるなど、少しずつネットワークを広げる ✓ ディスカッションの場でも無理のない範囲で意見を言う
あるがまま	✓ 依頼は断らす、出来ることは全力を尽くすことで地道に信頼を獲得していく

2 意識的なネットワークの構築とそれを維持していくことが、現在の立場につながり研究にも役立っている

- ✓ 若手の時からネットワークの重要性を認識しており、意識して分野を問わず研究者間のネットワークを構築していた
- ✓ 博士課程やポスドク時代の留学先で知り合った海外の研究者との関係を、継続し維持することで現在の研究活動にも役立っている

ネットワークの構築の重要性を改めて意識付けするとともに、具体的なコミュニケーション方法やネットワーク構築手段、関係維持のモデル等を複数提示し各々の人間関係スキルのスタイルを確立するためのサポートを行うことが必要である。

研究を続けていく上では、自己啓発とストレス管理の2つのセルフマネジメントが必要である。

研究者に求められるマネジメントスキルの分析結果

1 自己啓発の能力は、3つのスタイルに大分される

- ✓ つらい時もあきらめることなく、また現状に満足せずに向上心を持って研究を続けている

スタイルの種類	行動・手法
情熱・熱意	✓ 研究への情熱や学問に関する探究心などをエネルギーにつらい時も乗り越え、研究を進めていく
楽観・鈍感	✓ 人からの評価を気にせずに、出来ることを粛々と進めていく
冷静・分析	✓ 自分の性格や状況を分析し、今できること・必要なことを明らかにして、計画的に物事を進めていく

2 ストレス管理の能力は、2つのスタイルに大分される

- ✓ 特に、出産・育児を経験してきたインタビューが多くコメントしており、プライベートと仕事の両立に必須の能力であると考えられる

スタイルの種類	行動・手法
割り切り・あきらめ	✓ 今できる精いっぱいのが出来ていれば、自分認め、しょうがないと割り切る ✓ 子育てなど、研究にリソースがさけない中、完璧を目指さず、周囲に頼りながら続けていく
楽観・ポジティブ思考	✓ 周囲の評価を気にせずに、何事にも動じない鈍感力を持ち最後までやり遂げる ✓ 不安になったり深刻な時も「なんとかなるさ」と明るさを持って自分を元気づける

研究の専門性やキャリア形成に資する教育だけでなく、セルフマネジメントなどの対自己・マインド面を鍛錬する機会や教育が必要がある。

語学力（英語）の強化に加え、創造力のある研究者を育成することが求められている。

研究者に求められる技術・知識の分析結果

1 英語が共通言語として使われているため、英語力は必須である

- ✓ 研究やプレゼンの中身がしっかりしていれば、海外の研究者に興味を持ってもらうことはできる
- ✓ しかしながら、論文投稿やグラントの申請などにおいて、最低限の英語力、作法は身につけている必要がある
- ✓ とはいえ、多様性の理解・自己の客観的な把握のために、まずは海外に進出してみる・挑戦してみる、ということが大事である
- ✓ 英語教育はこの十数年で改革が進んでいるため、次の世代は十分な英語力を身に着けることができていると予想される

2 研究のオリジナリティ、ユニークさ、独創性が必要である

- ✓ 流行りのテーマや研究者の多い・既にスター研究者がいるような分野はレッドオーシャンであり、新しい発見をすることが難しい
- ✓ 枝葉となるようなテーマを選ぶのではなく、その研究分野の幹となるような部分、分野や社会にとって意義のあるテーマを選ぶ
- ✓ 海外や他分野の研究者など、異なる属性の人とディスカッションすることで、自身の専門分野を客観的・多角的に整理している

3 自身の専門分野外の知識や教養を身に着けることが重要である

- ✓ 複数のインタビューが、日本人研究者は研究の専門性を十分に有しているとの指摘をしており、「日本人の研究能力は世界で通用するレベルである」「日本の教育はレベルが高い」とコメントしている
- ✓ 一方で、異分野・異業種とのネットワークを構築するため、自身の研究をさらに発展させ深めていくために、専門分野外の知識や教養を身に着けることが重要

現在の研究者育成プログラムに
グラント申請のノウハウなど、実際に英語が必要な場面に直結する研修等を追加する。
また、固定のテーマに縛られずに多様な研究を支援できるようなプログラム及び
研究の評価スキームを検討する必要がある。

Appendix

Appendix —インタビュー概要—

分野	氏名	所属	インタビューにおける主なコメント
人文学	研究者①	国立民族学博物館 准教授	<p>2 表現力</p> <ul style="list-style-type: none"> 自分の特徴や強みを相手に伝えられるプレゼン能力を備えることが重要であり、良いお手本から学ぶ意識を常に持ちながら能力を身に付けていく必要がある
人文学	研究者②	京都大学 教授	<p>14 グローバル能力</p> <ul style="list-style-type: none"> 国際的な活躍には、英語圏における関心事項に興味を持ち、理解を深め、議論に参加する必要がある
社会科学	研究者③	政策研究大学院大学 教授	<p>1 ネットワーキング 12 研究技術・専門知識</p> <ul style="list-style-type: none"> 国際協力にどのように貢献できるかを考え続けてきた実践知を大事にし、しかるべきところへネットワークを広げて発信をしてきた
社会科学	研究者④	JETRO Bangkok 副主任研究員	<p>11 創造力 14 グローバル能力</p> <ul style="list-style-type: none"> 海外では自身のローカリティを大事に研究の核として残したうえで、現地でも伝わるようなアウトプットを意識する必要がある
社会科学	研究者⑤	九州大学 副学長	<p>3 コミュニケーション</p> <ul style="list-style-type: none"> 多様なバックグラウンドを持つ相手を理解し、聞き手の知的好奇心を刺激するような発言を心掛けている

Appendix –インタビュー概要–

分野	氏名	所属	インタビューにおける主なコメント
社会科学	研究者⑥	テュービンゲン大学 上級研究員	<p>13 汎用技術・知識</p> <ul style="list-style-type: none"> 積極性をもってネットワークを広げ周囲に自分を認知してもらうことが、海外で研究者として活躍するためにポジティブなことにつながる
社会科学	研究者⑦	星槎大学 副学長	<p>1 ネットワーキング 3 コミュニケーション</p> <ul style="list-style-type: none"> 研究者にとってコミュニケーションスキルは重要な能力であり、特に海外では、熱狂的で情熱的な側面が重要である
総合理工	研究者⑧	九州大学 教授	<p>11 創造力</p> <ul style="list-style-type: none"> オリジナリティーや独創性のある研究を選び、右も左も分からない中新たな知識を獲得していくことに研究の面白さがある
総合理工	研究者⑨	千葉大学 教授	<p>3 コミュニケーション 14 グローバル能力</p> <ul style="list-style-type: none"> コミュニケーションが苦手であっても、積極的に行おうとする姿勢が重要であり、少しずつでもネットワークは広がっていくものである
総合理工	研究者⑩	クイーンズランド大学 教授	<p>13 汎用技術・知識</p> <ul style="list-style-type: none"> 自らの能力に満足することなく、常に自分分析を行いながら物事を俯瞰し、研究のストラテジーを持って取り組んでいくことが重要である

Appendix —インタビュー概要—

分野	氏名	所属	インタビューにおける主なコメント
数物系 科学	研究者⑪	理化学研究所 主任研究員	<p>1 ネットワーキング</p> <ul style="list-style-type: none"> 自分自身を売り込み、周囲に知ってもらう努力が必要であり、積極的なセルフプロデュースが研究者としての活動に有効なものとなる
数物系 科学	研究者⑫	東京理科大学 副学長	<p>3 コミュニケーション</p> <ul style="list-style-type: none"> 人を動かすためには、語学力だけでなく、ビジョンを持って語りそれを伝えることも重要である
化学	研究者⑬	名古屋大学 教授	<p>11 創造力</p> <ul style="list-style-type: none"> ユニークでクレイジーな研究をすることを常に考え、自分も周囲もワクワクするような研究をしたい
化学	研究者⑭	ミュンヘン工科大学 教授	<p>9 セルフマネジメント</p> <ul style="list-style-type: none"> ドイツでポジションを取るために、有名な賞やグラントを狙って取りに行き、分かりやすい実績を作った
化学	研究者⑮	デルフト工科大学 教授	<p>3 コミュニケーション 13 汎用技術・知識</p> <ul style="list-style-type: none"> 相手を理解し、適切に会話やディスカッション、質疑をするコミュニケーション能力は、研究者が国際的に評価されるために重要な能力である

Appendix –インタビュー概要–

分野	氏名	所属	インタビューにおける主なコメント
工学	研究者⑯	南洋理工大学 准教授	11 創造力 <ul style="list-style-type: none"> 研究者としてスーパースターでなければ、オンリーワンとなれるようなニッチな分野を作り、魅力ある研究をすることが重要である
総合生物	研究者⑰	東京医科歯科大学 教授	11 創造力 <ul style="list-style-type: none"> ストリートスマート型のスタンスで、既存の教科書や概念、論文などにとられることなく、考えを巡らせることが重要である
総合生物	研究者⑱	東京工業大学 准教授	2 表現力 13 汎用技術・知識 <ul style="list-style-type: none"> 会議では積極的に発言することや、少ないチャンスを逃さないために自分の能力を高める準備を怠らなことが、海外で活躍するために重要である
総合生物	研究者⑲	コーネル大学 教授	1 ネットワーキング <ul style="list-style-type: none"> 研究者やエディターとのネットワークを広げることで、その後の研究活動の幅が広がる
生物学	研究者⑳	同志社大学 教授	3 コミュニケーション 4 チームワーク <ul style="list-style-type: none"> 周囲に対し思いやりを持って関わることのできる人当たりの良さが、共同研究など対外との研究を発展させていく中で重要な能力である

Appendix –インタビュー概要–

分野	氏名	所属	インタビューにおける主なコメント
医歯薬学	研究者⑳	岡山大学 副理事	<p>2 表現力 3 コミュニケーション</p> <ul style="list-style-type: none"> 違いを言語化し、相手にそれを説明できることや、話をよく聞き、相手の利己的な感情に訴えかけることが重要である
医歯薬学	研究者㉑	ロンドン大学 教授	<p>12 研究技術・専門知識</p> <ul style="list-style-type: none"> 上質な論文を書けば誰かが見てくれているという思いで、自分の強みとする領域で研究を行ってきた
医歯薬学	研究者㉒	東北大学 教授	<p>2 表現力 13 汎用技術・知識</p> <ul style="list-style-type: none"> サイエンスの課程とはディベートそのものであり、自身の研究を基にしたディベートを繰り返し行う中で、研究の新たな可能性を見出すことができる
情報学	研究者㉓	NASAジェット推進研究所 研究員	<p>3 コミュニケーション 4 チームワーク</p> <ul style="list-style-type: none"> 相手のバックグラウンドを理解し、コミュニケーションをとることが、気持ちよくチームメイトとプロジェクトを進めていくうえで不可欠な能力である
情報学	研究者㉔	理化学研究所 センター長	<p>3 コミュニケーション</p> <ul style="list-style-type: none"> 若手時代には積極的に外国人のコミュニティと交流し、ネットワークを形成した

Appendix –インタビュー概要–

分野	氏名	所属	インタビューにおける主なコメント
情報学	研究者⑳	富士通研究所 フェロー	<p>3 コミュニケーション 12 研究技術・専門知識</p> <ul style="list-style-type: none"> 核となる研究技術を持ったうえで、相手に理解してもらおうとするホスピタリティを意識したコミュニケーションが重要である
環境学	研究者㉑	北海道大学 教授	<p>1 ネットワーキング 3 コミュニケーション</p> <ul style="list-style-type: none"> 相手の文化を尊重し理解をしたうえで、積極的なコミュニケーションを図り、ネットワークを広げることが重要である
環境学	研究者㉒	東京大学 教授	<p>9 セルフマネジメント</p> <ul style="list-style-type: none"> 学問への憧れや野心が、つらい研究を乗り越えるモチベーションとなっている
複合領域	研究者㉓	ナノ医療イノベーションセンター センター長	<p>12 研究技術・専門知識</p> <ul style="list-style-type: none"> 分野を越境する好奇心を持ち、異なる考え方や視点を取り入れることで、新たな発見が生まれる
複合領域	研究者㉔	Korea Institute of Science and Technology 主任研究員	<p>4 チームワーク</p> <ul style="list-style-type: none"> 人に認めてもらう能力を身に付け、互いがリスペクトし合う信頼関係を築き上げることが、チームを組んで研究していく中で重要である